

# 《 環境学部 》

令和8(2026)年度出前授業

No.	テーマ	概要	講師	関連する 高校教科	オンライン 対応
26E001	ごみ問題の不都合な現実～なぜごみにお金がかかるのか？～	私たちの生活から出る「ごみ」は、この100年以内に劇的に増加し、様々な環境問題を引き起こしてきました。特に、近年は廃棄物による海洋汚染が世界的な問題となっています。ごみ問題について正しく知ることが大切です。この講座では、ごみ問題に係わるトピックを取り上げ、なぜごみにお金がかかるのか、ごみの不法投棄はなぜ起こるのか、不法投棄をなくしていくにはどうすればよいのか、などについて考えていきます。	学部長 准教授 門木 秀幸	公共 理科	○
26E002	食品ロスについて考える ～いのちとの向き合い方～	我が国の食品ロス発生量は約500万トンとされています。食品ロスは食べられるのに廃棄されている食品です。食品は、もともと命があった生き物から生産され、消費者に安全に提供できるよう多大な努力がなされ、この過程で多くの資源を消費し、私たちの食卓に上ります。ひとたび廃棄物となると、多くは再資源化が困難であり焼却処分されます。本講座では食品ロスの現状、削減の取組み、私たちの命への向き合い方について考えます。	学部長 准教授 門木 秀幸	公共 理科	○
26E003	鳥取県の水産業の現状と課題	四方を海に囲まれた我が国において、水産業は古くから重要な産業に位置づけられてきましたが、近年、この水産業は厳しい現状にあり、多くの課題に直面しています。水産業は、自然任せの産業であるが故に、私たち人間は自然と上手につきあひながら、その変化に適応する必要があります。また、消費者ニーズや労働力の確保など、社会情勢の変化への対応も必要です。鳥取県の水産業を将来に渡って持続していくために必要な課題を整理し、今後の展望について考えていきます。	副学部長 准教授 太田 太郎	公共 生物	
26E004	豊かな海洋生物資源を育む大切な沿岸海域	豊かで美しい日本海。私たちはこの日本海に住む様々な生き物を、漁業を通じて食糧資源として利用しています。この資源を育む上で大切なのが、私たちの目の前にある沿岸の浅い海なのです。本講座では、特に魚類の子供(稚魚)にとっての沿岸域の重要性について、彼らの生き様とともに紹介します。	副学部長 准教授 太田 太郎	生物	
26E005	人物の生き方から納得解を求めよう	今、AIなど科学技術はどんどん進歩しています。一方、『君たちはどう生きるか』という本が話題になりましたが、この「どう生きるのか」という問題についても進歩ということが言えるのでしょうか。言えるのは、私たちは一人の人間として成長する存在であるということです。そのためには、「志を立てて以て万事の源となす」とあるように立志が必要だと言われます。歴史上の人物等の生き方に出会い、自問自答し、納得解を求めていくことの大切さについて、進歩という視点にも触れながら一緒に考えましょう。	特任教授 前田 哲雄	倫理 総合的な 探究の時間 特別活動	
26E006	世界の都市型住宅～長く使い続けられるまちなか住宅の仕組み～	居住人口の減少、お店の減少、空き家・空き地の増加は、近年の街なかによく見られる現象になっています。街なかには集積すべき都市生活機能が低下し、活気ある姿が見られません。今回の講座では、都市のにぎわい、活力のもととなる都市空間の事例をご紹介します。世界に長く使い続けられている都市型住宅の事例を通して、仕事、居住機能などを柔軟に収納する建築とその市街地の仕組みを概観し、まちなか住宅のあり方を探ってみます。	教授 張 漢賢	建築 生活 公共	
26E007	なぜ世界は持続可能にならないのか～持続不可能性の根源～	1992年の地球サミット以来30年以上の年月が経ちますが、気象災害や山火事など地球温暖化の影響は深刻さを増し、生物多様性も減少し続けています。その一方で海洋プラスチック汚染などの問題も発生し、世界は一向に持続可能な方向には向かっていません。これまで様々な対策がされてきたにもかかわらず、なぜ世界は持続可能にならないのか、現代社会の「持続不可能性」の根源を考えます。	教授 荒田 鉄二	公共 政治・経済	○
26E008	モノを作る生き物としての人間と環境問題～地球環境問題の根源～	人類を他の類人猿と分かつ特徴の一つに直立二足歩行があります。このことによって前肢が手となり、ヒトはモノを作る生き物となりました。最初の道具の製作以来、ヒトは自然物から人工物を作ってきました。そして産業革命以降このことを大々的に進めた結果、今日では、ゴミも含めて世界が人工物で満ちるに至りました。これは人工物を生み出し、環境を人工化していく人類の活動が地球の大きさという限界に達したことの現れと考えられます。モノを作る生き物という人類の特徴から地球環境問題の根源を考えてみましょう。	教授 荒田 鉄二	地理 公共 理科	○
26E009	世界の森林問題	地球温暖化に対して森林はどのような役割を果たすのか？京都議定書では森林はどのように位置づけられているのか？私たちの日々の木材利用(紙や住宅建設などを含む)をどのように方向付けることが地球に対して優しいやり方なのか、そんなお話をしたいと思います。	教授 根本 昌彦	公共 森林	

# 《 環境学部 》

令和8(2026)年度出前授業

No.	テーマ	概要	講師	関連する 高校教科	オンライン 対応
26E010	どこに何があるか知らなくても、ICTの助けを借りて天体観望	天体観望というものは、天体や望遠鏡の扱いに詳しい人がいないとなかなか実現できないものでした。しかし最近ではテクノロジーの進歩により、どこにどんな天体があるか知らなくても、比較的安価な機材の組み合わせでスマートフォンやモニター上で色付きの天体観望ができるようになりました。見てみたい天体を自動で見つけて観望するために、どのようなテクノロジーが、どういう組み合わせで使われて、今までできなかったことができるようになったのか。その仕組みを、実物や写真等を紹介しながら、STEAM教育の一環という意味も含めて解説します。	教授 千代西尾 裕司	理科	
26E011	海辺の生態学～陸と水と大気が接する唯一の場所～	磯や砂浜、干潟などの海辺は、川や湖沼とともに、陸地と海洋と大気が交わる唯一の環境です。日本は世界有数の海岸線長を持ち、海辺の景観も多様です。この多様な景観こそが、多様な海洋生物をはぐくみ、健全な海洋生態系と豊かな漁業資源を日本にもたらしているといっても過言ではありません。この授業では、鳥取の海はもとより、九州の有明海や東北の三陸の海などの海辺の景観とそこの生態系について、目に見える事象から目に見えない事象まで、お話します。	教授 吉永 郁生	生物 社会 その他	
26E012	微生物って何？	微生物は見えません。でもちゃんとそこにおいて、不思議なことをしています。では川や海の水、校庭の水たまり、運動場や水道水など、皆さんの身の周りにはどんな微生物がいるのでしょうか。見えない微生物をみんなで感じてみましょう。この授業では、身近な環境で微生物が人知れず、どんな事をしてきたのか、あるいはしているのかを考えていきます。	教授 吉永 郁生	理科	
26E013	環境のゲノム診断～人と環境を守るための最新科学～	ゲノム(genome)って何でしょう。それは生物の設計図とも言える遺伝子(gene)の世界です。私たちヒト( <i>Homo sapiens</i> )も含まれる生物世界の構成員、一個体すべてに一つのゲノムが存在しています。21世紀にはこのゲノム情報が生物世界の解釈に必要とされています。どのようにしてこのゲノム情報を自然環境の診断に活用しているのか、これからの研究の予測も含めてお話します。	教授 吉永 郁生	理科 生物 化学	
26E014	大学は「探究学習」に何を期待しているのか。	AIの普及や労働人口の減少などから、日本社会は大きく変貌しようとしています。国際社会でもこの傾向は急速に進むでしょう。それにつれてこれからの社会を支える若者に求められる能力も10年前とは大きく変わっています。大学の学問を通して学ぶ「自ら考え、感じ、行動できる」能力を持つ人材はいかなる業界・分野でも活躍できるでしょう。本学で行われている、座学も含めた探究的な教育事例を紹介し、探究的な学びの本質や方法論を考えていきます。	教授 吉永 郁生	探究	
26E015	ピアサポートシリーズ「アサーション」～心と言葉を大切に～	アサーションとは、自分のことも相手のことも傷つけず、上手に自己表現し、コミュニケーションすることです。「あんなこと言うつもりじゃなかったのに」と後悔したり、本当は傷ついているのに「いいよ。気にしないで」と笑っていたことはありませんか。この授業の前半では、対人関係や心理学の知識について説明します。そして、後半は、皆さんと一緒にワークシートやエクササイズを通して、自己や対人関係のパターンについて考えてみましょう。	教授 藤田 恵津子	総合的な学習	
26E016	花とハナバチの関係から生態系保全を考える	生態系は多様な生物がお互いに関わりあうことで成り立っています。地球上の生物の関係を全て解き明かすことは不可能ですが、それでも多くの生態学者がさまざまな側面から生物間の相互関係の解明を目指しています。私は植物とハナバチ類の関係に注目しています。どのようなハナバチがどのような花を選ぶのか、そしてどのように蜜や花粉を集めるのか、そして歩くことのできない植物はどのようにしてハナバチを利用しているのか、こんなことをお話します。生物の進化や生態系保全といったことについても考えます。	教授 笠木 哲也	生物	
26E017	日本の森林の歴史と現状	日本は森林の面積率が高い国です。そして、奥山から里山、照葉樹林や北方林、そして自然林と人工林など、日本列島の森林は多様です。このような多様な森林がどのように形成されてきたのか、そして現在の日本の森林にはどのような問題があるのかといったことを考えてみましょう。	教授 笠木 哲也	生物	
26E018	古い木造住宅は危ないのか？	1995年兵庫県南部地震では建築基準法制定以前に建てられた古い木造建物の倒壊など大きな被害が目立った一方、2000年鳥取県西部地震以降の地震被害調査では、さらに古い木造建物が倒壊しなかったあるいは軽微な被害にとどまっている事例も見られます。これらの事例を紹介しながら、伝統的な技法で安全な木造住宅を建て、維持する方策を考えます。	教授 中治 弘行	建築 物理	

# 《 環境学部 》

令和8(2026)年度出前授業

No.	テーマ	概要	講師	関連する 高校教科	オンライン 対応
26E019	ごみの大研究ーよく 知って、減らそう！ー	私たちの社会は、たくさんものを買ったり、使ったりすることで成り立っています。ものは何時かは必ずごみになりますので、ものが増え、ごみも増え、資源枯渇や生活環境の悪化など多くの問題を引き起こします。私の生活から捨てられたごみは、目の届かないところへ行かれますが、ごみをよく知って消費生活を変え、循環型社会づくりに向けて行動の第一歩を踏み出してみませんか。	教授 金 相烈	公共 理科	
26E020	ごみは資源！～台所の 生ごみがエコエネ ルギーへと変身～	地球温暖化をはじめとする環境問題や3.11東日本大震災を機に、安全・安心のエネルギーの確保への意識が高くなってきましたが、台所の生ごみのような身近な廃棄物系バイオマスを用いて、エネルギーへの変換の最新の技術、その事例および課題等を紹介いたします。	教授 金 相烈	公共 理科	
26E021	地球温暖化とエネ ルギー問題を考 えてみよう	現在問題になっている地球温暖化とは具体的にはどのような事をいうのでしょうか？その原因は？影響は？そしてどのような対策が採れるのでしょうか？最新の温暖化に対する情報をもとに、エネルギー利用における温暖化対策を、再生可能エネルギーを中心に考えてみます。	准教授 松井 徹	理科 化学 公共	
26E022	生活を豊かにするユ ニバーサルデザ イン	人生100年時代の今、仮に病気や事故でからだが不自由になっても、仕事をし、余暇を楽しむ「かわらない生活」を送ること、そしてそれを可能にする「住み続けることができる環境」が求められます。建築のユニバーサルデザイン(UD)とは、障害の有無、年齢、性別、人種等にかかわらず、利用できる建物や環境をデザインすることです。ややもすると「特別なデザイン」と思われるかもしれませんが、ユニバーサルデザインは「安心・安全・快適に生活を楽しむための手法」です。皆さんのご家族や身の回りの環境を思い浮かべながら一緒に考えましょう。	准教授 老田 智美	建築 生活	○
26E023	環境汚染と私たち の暮らし	私たちは様々な化学物質を新しく作り出し、暮らしを多様で便利なものにしてきました。その結果、今では人間以外の生物も私たちの作り出した化学物質に囲まれて暮らしています。一部の物質については健康や環境に予想外の作用をしてしまうものもありました。これらの反省を踏まえ、世界規模で化学物質による負の作用を最小化するための取組みが行われています。環境汚染に対する取組みの現状を紹介するこの講義が今後の化学物質とのつきあい方について見直す機会にできればいいですね。	准教授 山本 敦史	理科 化学	
26E024	汚れた水を綺麗に する ～生活排水処理の しくみ～	我々が生活する中で、多くの水を使い、そして、排水しています。キッチン、お風呂、洗濯そしてトイレなどで使用した水はどのように処理されているのでしょうか？生活排水を処理する様々なシステムの概要と、それぞれが抱える問題点などについてお話します。	准教授 戸苅 丈仁	化学 生物 公共	○
26E025	下水道がもつ力 ～下水からエネ ルギーを生み出す～	下水処理場からは大量に、かつ、安定的に、均質な下水汚泥が日々発生しています。今まで我々は、下水汚泥を埋め立てたり、燃やしたり、「処理・処分」することに一生懸命取り組んできました。しかし、下水汚泥はガス、電気、舗装材料、セメント原料など色々なものに利用できるので、「処理・処分」から「再生・利用」へと転換した下水汚泥の可能性についてお話します。	准教授 戸苅 丈仁	化学 生物 公共	○
26E026	「生きる力」を考 える ～ぐちゃぐちゃ 社会を乗り切 るコツに気づ こう～	なにが答えかわからない今の社会。激しい社会変化の中で、自立して生きるために必要な発想力と行動力とは？グループワークを多用しながら、生徒たちが「気づく」授業を展開します。「主体的・対話的で深い学び」を目指します。	准教授 柚洞 一央	総合 地理	
26E027	一枚の地形図から	地形図一枚から、「人の記憶」、「地球の記憶」を読み取ってみませんか？南大東島などを事例に、地形図から地域の歴史、地形の成り立ちまで、壮大な物語を楽しみましょう。なぜ？がわかるわくわくする地図授業を展開します。グループワークによる展開も可能です。「主体的・対話的で深い学び」を目指します。	准教授 柚洞 一央	地理	
26E028	なぜ大学に行く のか？	大学で学ぶということはどういうことか。人生設計について、主体的・対話的で深い学びを通して考えます。想像力の重要性に気づく授業を目指します。	准教授 柚洞 一央	進路 総合	
26E029	ゴムを再資源化 するキノコ	捨てられていたゴムを再資源化できるかもしれないキノコがこれまでの研究から明らかとなりました。キノコはゴムにどんな影響を与えているのか、また私たちの生活にどのように役立つかについてお話いたします。	准教授 佐藤 伸	理科 生物 化学	

# 《 環境学部 》

令和8(2026)年度出前授業

No.	テーマ	概要	講師	関連する 高校教科	オンライン 対応
26E030	足もとに広がる宇宙 ～世界をささえる土 の話～	すぐ身近にありながら、意外に知られていない土の世界。なんとなく「大切だ」と思われていますが、実は「とても大切なもの」なのです。世界のさまざまな場所で撮ってきたたくさんの土の写真を眺めながら、その土地の人々をささえる土の役割について、皆さんと一緒に考えたいと思います。カラフルな土の世界を旅してみましょう。	准教授 角野 貴信	理科 化学 生物 地理	○
26E031	人工衛星からの地球 観測	現在、地球の周りには数多くの人工衛星が飛行しています。人工衛星からは地球全体を観測することができ、植生の分布や地表面の温度など様々な情報を得ることができます。また、継続的に得られたデータは地球の変化のモニタリングにも役立ちます。人工衛星でどのように地球の情報を取得して、どのように活用されているのか見ていきましょう。	准教授 佐川 龍之	理科 地理 公共	○
26E032	教育学からみえる「社会」	「なぜ、人は学校に通うのか」、「なぜ、学校という社会システムが必要なのか」…そんな疑問を念頭に置きつつ、私たちが当たり前のように学校に通い、教育を受けていることの意義や影響、学校教育を支えているさまざまな社会的システムについて分かりやすく概説します。私たちが生きる社会の中で、教育・学校というものがいかに重要な役割を果たしているのか、改めて考えてみましょう。	准教授 川口 有美子	公民	
26E033	サンゴとサンゴ礁	サンゴは約5億年前に地球上に出現し、現在も北極から南極まで、浅海から深海まで世界中のさまざまな海に生息しています。また、南の海では、サンゴが主要な枠組みとなり、数多くのサンゴ礁が形成されています。この授業では、サンゴやサンゴ礁に関する最先端の研究成果をもとに、その特徴や進化、さらには、地球環境を考える上での重要性についてお話しします。	准教授 徳田 悠希	地学 生物	
26E034	鳥取の地質	鳥取県には約3億年前から現在にかけてできた、さまざまな岩石が分布しています。これらの岩石を調べることで、日本周辺のプレートの状況や日本海がどのようにできたのかを知ることができます。この授業では過去から現在まで鳥取の大地がどのようにできてきたのかを、鳥取に分布する岩石から学びます。	准教授 徳田 悠希	地学	
26E035	鳥取の化石	鳥取県からは数多くの化石が産出します。例えば、約1700万年前の浅い海に生息していた魚類化石(宮下魚類化石群)や、約650万年前の植物化石(辰巳峠植物化石群)は日本を代表する重要な化石です。この授業では化石の定義や、化石がどのように形成されるのかをはじめ、鳥取県から産出する化石の特徴やその重要性についてお話しします。	准教授 徳田 悠希	地学 生物	
26E036	より良い環境活動の あり方を考える	日本、フィンランド、オーストリア。それぞれの国の環境活動を見ていき、そのコミュニケーションのあり方を、事例を通して、分析していきます。そしてより良い環境活動を行うにはどんなことが重要かをみんなで一緒に考えます。	准教授 甲田 紫乃	公共	
26E037	大気汚染の基礎	大気汚染の歴史や、PM2.5、光化学スモッグ、酸性雨まで、大気汚染の基礎とともに、鳥取県の大気汚染の現状を学びます。そして、これからの大気汚染について、私たちができることはなにかについて、みんなで一緒に考えます。	准教授 甲田 紫乃	公共 化学 理科	
26E038	グループ・ダイナミクスに 触れてみる	グループ・ダイナミクスは家族やコミュニティなど、様々な集合体(集団)の動きを研究対象とする社会心理学の一分野で、その研究スタンスは、現場の改善や改革を協同的実践を通して行っていくというものです。この授業では、グループ・ダイナミクスにおける基本的な考え方に触れてもらいつつ、社会心理学で使われる様々な手法も簡単に紹介します。そして、現場を良くしていくためにはどうしたらいいのかについて、みんなで一緒に考えます。	准教授 甲田 紫乃	公共	
26E039	ヒートアイランド現象 とサクラの開花日の 関係ー都市は本当に 熱いの？ー	気象庁では、毎年各地の気象台で植物季節観測を実施しています。特に、サクラは花見の観賞としても社会的関心が高いため、開花日や満開日の調査がおこなわれています。その中で、近年サクラの開花時期が徐々に早まっているのではないかと指摘されています。この開花の早まりの原因の一つとして地球温暖化の影響も考えられていますが、サクラの観察を実施している気象台は都市内に位置する 경우가多く、ヒートアイランド現象の影響も大きく寄与しています。そこで、授業では、ヒートアイランドとサクラの開花日の関係についてお話しするとともに、ヒートアイランド現象は本当に悪者なのか？皆さんと一緒に考えていきたいと思います。	准教授 重田 祥範	理科 地学 生物	

# 《 環境学部 》

令和8(2026)年度出前授業

No.	テーマ	概要	講師	関連する 高校教科	オンライン 対応
26E040	農村の将来像について考える	我が国の農村地域は、過疎・高齢化の進行、農業の担い手不足、耕作放棄地の増加、生活インフラ、サービスの低下など、様々な問題が生じています。講義では、このような地域課題が生じている構造を解説するとともに、グループワークを通して、課題解決の方策や農村の将来像について一緒に考えたいと思います。	准教授 山口 創	公共	○
26E041	野生動物の行動観察方法	身近な動物の行動を不思議だなと感じたことはありませんか。その行動にはどのような意味があるのでしょうか。この授業では、動物の行動を記録する方法を学び、身近な動物の世界をのぞく手助けをします。野生動物と人間の共存を模索するため、まずは相手(動物)のことを知ることが大切です。	講師 谷口 晴香	生物	